

■今月の特選句

2017年11月

大差なくみな六十年の干し柿に

石塚柚彩

同級会の風景ですね。かつてはナンバーワンの美人も、十人並みの私も、似たような外見でひと安心。だけどあの憧れのイケメン君の老け方は残念。

生身魂老いても押せる横車

青木輝子

老人車のことかと思ったら、「横車」なんだね。「三つ子の魂百まで」だから、「根性悪」は治らん。横車を押して、どんどん暴れるのが元気の素よ。

色づいて尻でかくなり柿の秋

村松道夫

食べ頃ですなあ。虫がつかないうちに出さんと。熟れ過ぎもよろしくありませんし。この句は柿の句であって、「取り合せ」の娘さんの句ではないよ。

宝くじ露けき夢に支へられ

柳 紅生

「宝くじは当たらないものの代表だけど、唯一、当たったのは嫁さんよ。別嬪で優しくてさ」「あんた、口だけは上手いね。俳句よりずっと巧いわ」。

秋天に吊り上げられて象の鼻

新島里子

同じものを見ても異なる捉え方、発想をする。これが俳句の面白さだね。「秋天をくすぐつてゐる象の鼻」「秋天に届くはずなき象の鼻」。

秋深し隣は孫の来ておりぬ

西をさむ

隣家には孫が来て、我が家には来ない。爺ちゃんが俳句つくれと言うから敬遠してるのよ。小遣いをくれと言わないロボットでも買いませんか。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

悪童が狛犬いぢめ神の留守
・・・狛犬嫌がり阿とか畔とか

本門明男

新蕎麦やもりかけざるの伏魔殿
・・・ずるいずるいの音立てて食ふ

八洲忙閑

村芝居悪の越後屋簷（くじ）で決め
・・・濡れ場の役は希望者多く

田村米生

松茸嗅ぐ貧しき性は持たねども
・・・鼻が勝手に嗅いでしまうよ

越前春生

答弁も吹けば飛ぶよな赤い羽根
・・・羽根は議員の胸を嫌がり

加川すすむ

仮分数の順列である曼珠沙華
・・・あたまでかちを難しく言い

久我正明

天高く馬の骨にも肉が付き
・・・そいつは何処の馬の骨なの

下嶋四万歩

吊り橋に止まりて揺らし赤とんぼ
・・・五万匹なら揺れるだろうか

梅野光子

銀杏の実嗅いでおこうと公園へ
・・・みんなが嫌う臭いをなぜに

山本 賜

鶏頭も熟女めきたる子規の庭
・・・十四五人というわけですね

太田史彩

色々な色なき風が秋の色
・・・心象の色絵の具で出せず

伊藤浩睦

仇討ちのやうに秋の蚊打ちにけり
・・・大切な血を吸いやがったな

白井道義

生身魂ネット御宅となりにけり
・・・ニュース見るのもユーチューブだけ

久松久子

■今月の滑稽句

- | | |
|---|-------------------------|
| 【佳作】箱眼鏡地球の底を覗き込み
天空へ去ぬるや燕の親子連れ
すつぴんを隠す日傘のはや走り | 相原共良
相原共良
相原共良 |
| 人生の不惑の四十穴惑い
【佳作】年金者一匹分け合う瘦せサンマ | 青木輝子
青木輝子 |
| 【佳作】ゆるやかな傾り(なだり)が好きよ曼珠沙華
人は言ふ葉見ず花見ず曼珠沙華
右左口(うばぐち)を過ぎて往還幾曲がり | 青山桂一
青山桂一
青山桂一 |
| 雁渡し火野正平の及び腰
どんな時も男が悪い九月来る
【佳作】永田町雀蛤となるならひ | 赤瀬川至安
赤瀬川至安
赤瀬川至安 |
| 風の盆呼吸のやうに胡弓の音
【佳作】ひよんの笛ひよんなことから好きになり
喪の家を指さす案山子笑ひ顔 | 荒井良明
荒井良明
荒井良明 |
| コスモスの楽な姿勢は揺れること
新党のやけくそバツタ飛ぶは飛ぶ
【佳作】秋の蚊の酔ったふりしてチクリ刺す | 井口夏子
井口夏子
井口夏子 |
| 【佳作】共白髪までとて髪染め枯尾花
天高し牛飲馬食のサラダ記念日 | 池田亮二
池田亮二 |
| 【佳作】舞い込んだイナゴに孫が飛び出せり
ほうき草風にころりんごつつんこ | 石塚柚彩
石塚柚彩 |
| 八十路来て道半ばたり枯木道
ヤギケンをエノケンと紛ふ冬うらら
【佳作】歳時記や鳴いて秋蚯蚓は夏よ出でて春 | 泉 宗鶴
泉 宗鶴
泉 宗鶴 |

【佳作】 獣医科の新設されて馬の市 秋風や死ぬなら今と思ふけど	伊藤浩睦 伊藤浩睦
【佳作】 その日まで付いて行きます濡れ落葉 つくづく小春日和の平和ボケ 団子より一寸一杯の返り花	伊藤洋二 伊藤洋二 伊藤洋二
花芒明日は風あり旅がある 【佳作】 鰯雲浜の大漁とて久し 朝顔に明日の色あり予感あり	稲沢進一 稲沢進一 稲沢進一
LED二百十日の闇照らす 合掌をすべるは老僧秋彼岸 【佳作】 長き夜や肝心なこと切り出せず	稲葉純子 稲葉純子 稲葉純子
高齢走二十メートル運動会 【佳作】 Jアラートそれがどうした芒原 穴惑ひ吾は年中惑ひけり	井野ひろみ 井野ひろみ 井野ひろみ
【佳作】 台風の中歩いたと冒険談 レモン汁サラダにはじける音軽し どんぐりの穴を覗けばどんぐり虫	上山美穂 上山美穂 上山美穂
青みかんこれはハズレで酸っぱいかも 木守柿のひとつだけふ孤独かな 【佳作】 灯火親しみ駄句を量産する	梅岡菊子 梅岡菊子 梅岡菊子
秋うらら庭掃く母の背の丸し 【佳作】 今は亡き夫とコスモス揺れてゐる	梅野光子 梅野光子

- | | |
|---|----------------------------|
| 【佳作】 大袈裟に咳ひとつして松手入
顔もあり足ある不思議秋寒し | 越前春生
越前春生 |
| 台風にシャワーキャップの御輿かな | 太田史彩 |
| 【佳作】 秋桜DHA・EPA・DDT | 太田史彩 |
| 【佳作】 男らがビルを解体秋日和
人と馬一体なれば天高し
血糖値などは忘れて葡萄狩 | 小笠原満喜恵
小笠原満喜恵
小笠原満喜恵 |
| 秋空やあかんべいする二枚舌 | 岡野 満 |
| 【佳作】 からころと笑い転げる枯葉かな
右左揺れる芒や恋心 | 岡野 満
岡野 満 |
| 秋深む医者と言ひ分患者の都合
糸瓜棚あるじなして実の垂る | 小川鈍太
小川鈍太 |
| 【佳作】 パリコレを向かうに回し山粧ふ | 小川鈍太 |
| 小鳥来るトランプも来る日本国 | 加川すすむ |
| 【佳作】 断捨離の踏ん切りつかぬ木の葉髪 | 加川すすむ |
| 鉦叩き思ひ出しては鉦叩く
銀木犀金より燻し銀が好き | 川島智子
川島智子 |
| 【佳作】 大空へ身の程知らぬ飛蝗跳ぶ | 川島智子 |
| 【佳作】 曼珠沙華みんなで受ける再試験
花嫁の第一候補青林檎 | 久我正明
久我正明 |
| 月高し地球の空の行き詰まる
螻蛄の鎌くくくと大上段 | 工藤泰子
工藤泰子 |
| 【佳作】 パンドラの箱から希望石榴笑む | 工藤泰子 |

独り鳴きするのが好きでちろ虫 大型台風フォルテッシモの音を出す	桑田愛子 桑田愛子 桑田愛子
【佳作】 爽やかや期待されないてふ軽さ	
おふたりの尻に証拠の草虱 【佳作】 あられもないR指定の案山子かな コスモスの風もないのによく揺れる	小林英昭 小林英昭 小林英昭
秋場所はチャンスと見しが怪我に泣く 彼岸の夜襲名披露こそばゆく	佐野萬里子 佐野萬里子 佐野萬里子
【佳作】 かぐや姫月を眺めて嘆く頃	
【佳作】 墓拝む着信音の高らかに 松茸のお礼を言っている夢か	下嶋四万歩 下嶋四万歩
【佳作】 豊満の八等身の巨峰かな 八等身外さないでよサングラス 赤城嶺に由緒正しき雲の峰	壽命秀次 壽命秀次 壽命秀次
それとなく犯人像や夜長し 【佳作】 沖目差すとき流燈のためらはず	白井道義 白井道義
天高し超高速の滑り台 【佳作】 野間馬と再会の秋プリンセス 洪水で疲れぬ河や彼岸花	鈴鹿洋子 鈴鹿洋子 鈴鹿洋子
ジグザグに来る秋に栗の実コロリ 上を向いて咲くからコスモスと言える	鈴木和枝 鈴木和枝 鈴木和枝
【佳作】 夕陽つかまえていたカーブミラー	
夕食におかまの中は栗ごはん 肌寒や一枚着たい帰り道	鈴木哲也 鈴木哲也 鈴木哲也
【佳作】 テキストとコーヒーそばの夜長かな	
松茸の値札は光り顔曇り 帯解きや着付け教室母の手で	高田敏男 高田敏男 高田敏男
【佳作】 ぼろ市にまだ新しき擬い物	

肩凝るとFカップの友片時雨 策士策に自ら溺れ秋出水 【佳作】 それぞれに一家言ある新酒かな	高橋きのこ 高橋きのこ 高橋きのこ
幸不幸ないまぜに咲く曼珠沙華 白髪の面影と会ふ秋彼岸 【佳作】 名月や研ぎ澄まされる前頭葉	高橋ユミ子 高橋ユミ子 高橋ユミ子
露草や乙女から挨拶受ける 【佳作】 職務質問されてしまひぬ虫の闇 彼岸花あの世この世の道しるべ	田中 勇 田中 勇 田中 勇
猪首老い息子にすがり秋の旅 背を流し豊作語る病む夫に 【佳作】 秒読みの余命となりて温め酒	田中早苗 田中早苗 田中早苗
レモン切る縦に輪切りは駄目ですか 【佳作】 神送る貧乏神だけ腰上げず	田村米生 田村米生
嫁勤め忘れ秋茄子忘れまじ 【佳作】 秋麗平日なんて恨めしい 在庫あり新酒検索予算超え	月城花風 月城花風 月城花風
【佳作】 ドクターのストップ食らふ温め酒 外つ国の人搔き分けて菊供養 金木犀匂はぬ夫に匂ふ妻	飛田正勝 飛田正勝 飛田正勝
【佳作】 大盃に月を浮かべて一人酒 台風も隣国の圧進路変え 秋茄子味はまったく変わりなし	中井 勇 中井 勇 中井 勇
【佳作】 矢印となつて秋刀魚の骨残る トランプのひとり占ひ鴉高音 ふた色のぶだうの房のランデブー	新島里子 新島里子 西岡幸子

- | | |
|---|-------------------------|
| 【佳作】 金色堂出でて地上の薄紅葉
頭垂れ台風堪へ二週間 | 西岡幸子
西岡幸子 |
| 【佳作】 二度ならぬ三度も手水夜の長し
やや寒や財布に残る二千元 | 西をさむ
西をさむ |
| 【佳作】 ダイエット日本に来る秋刀魚みな
見てくれも字も渋そうな柿をむく
秋迎え齡取るビールまだ元気 | 花岡直樹
花岡直樹
花岡直樹 |
| 夜這星冥王星はいま如何に
【佳作】 満月や魔法のまたがる箒過ぐ
ばあちゃんに油断めさるな放屁虫 | 原田 曄
原田 曄
原田 曄 |
| 【佳作】 七五三コスプレ役者になりきって
台風の破れかぶれに太平洋 | 久松久子
久松久子 |
| 【佳作】 充実の実は梨のことかぶりつく
ホイッスルの音のきびきび天高し
間引き菜の初々しさをおひたしに | 日根野聖子
日根野聖子
日根野聖子 |
| 伊予美人とろけそうなり月仰ぐ
【佳作】 秋夕焼体の芯まで染まりけり
藍色の空を恋ひゐる曼珠沙華 | 廣田弘子
廣田弘子
廣田弘子 |
| 敬老の日老大国の嘆き節
台風に桐喝されし身の細る
【佳作】 天高しうつらうつらの老いの午後 | 細川岩男
細川岩男
細川岩男 |
| 番号で呼ばれ台風ワルになり
雨なれば中止虫時雨コンサート
【佳作】 刈り終えた途端解雇の案山子かな | 堀川明子
堀川明子
堀川明子 |
| 【佳作】 胸張って嫁御姿の捨案山子
畦道にながなが帯の曼殊沙華 | 本門明男
本門明男 |
| 美しき尼の声明秋の風
侵入の経路は知らずちろ虫
【佳作】 希望てふ言の葉踊る百合の花 | 前田和男
前田和男
前田和男 |

- | | |
|-----------------------|-------|
| 満月に届くや穂高を唄ふ声 | 松井寿子 |
| 【佳作】 溶け合はず泉の水と雪解水 | 松井寿子 |
| 新築や栗の大木そのままに | 松井寿子 |
| 花野ゆきガイド男娼風になる | 松井まさし |
| 【佳作】 運動会大家族に來し出前かな | 松井まさし |
| 菊人形ガイドの指に首抜かれ | 松井まさし |
| 社長室には絵本を置こう穴惑い | 南とんぼ |
| 【佳作】 どこぞの虫枕元まで来て鳴くな | 南とんぼ |
| おでん鍋基地のチラシを鍋敷きに | 南とんぼ |
| 【佳作】 化けの皮剥げばあなたね新翹 | 椋本望生 |
| 稲を刈る喩へ意固地と言はれよが | 椋本望生 |
| 紅葉着てノックしてみる濁世かな | 椋本望生 |
| 【佳作】 角成れば馬と成りたる一茶の忌 | 村松道夫 |
| 亭主留守秋分の日の墓参り | 村松道夫 |
| 【佳作】 天高し草に居並ぶ牛の尻 | 百千草 |
| 誰か待つ容(かたち)に揺るる月見草 | 百千草 |
| 吹けば飛ぶほどの約束草の花 | 百千草 |
| 天高し穴に落ちたる物忘れ | 森岡香代子 |
| 山蒲萄わがままなりに肥りをり | 森岡香代子 |
| 【佳作】 激痛のリバウンド呼ぶスポーツの秋 | 森岡香代子 |
| 名月に近付きたくて高層へ | 八木 健 |
| カーナビの美女に騙され秋の路地 | 八木 健 |
| 【佳作】 秋の蚊を打ち損じたる気弱かな | 八木 健 |
| 風台風どこ吹く風の風小僧 | 八洲忙閑 |
| 【佳作】 喧嘩して地獄でほとけ神の留守 | 八洲忙閑 |
| 【佳作】 箸先の宝探しや栗ご飯 | 八塚一青 |
| 草の実の飛んで哀しきアスファルト | 八塚一青 |
| 出来ることもう何もなく芒散る | 八塚一青 |
| へそくりは非常袋に神の留守 | 柳 紅生 |
| 【佳作】 財布瘦せ目は肥えてゆく文化の日 | 柳 紅生 |
| 【佳作】 秋祭り下手な唄でもアンコール | 柳澤京子 |
| 愛猫の寝床はいつしかリンゴ箱 | 柳澤京子 |
| 満腹のイクラ丼感謝せり | 柳澤京子 |

待ちぼうけ秋の名のみの暑さかな	山下正純
【佳作】 人見知り名月出たり隠れたり	山下正純
背伸びして右にならえの彼岸花	山下正純
切られた西瓜は大抵三百八十円	山本 賜
【佳作】 集団を離れて咲いた曼珠沙華	山本 賜
マドンナは今は昔や敬老会	横山喜三郎
残り蚊やびんた張りをり己が頬	横山喜三郎
【佳作】 大花野鹿には読めぬ禁止札	横山喜三郎
神風が欲しい国難秋の陣	吉原瑞雲
永田町諸行無常の冬はじめ	吉原瑞雲
【佳作】 すすき野に独り気を吐く元議員	吉原瑞雲